

## 巻頭言「工業高校の重要さ」

山形県高等学校教育研究会工業部会長

菅 原 和 明

(山形県立寒河江工業高等学校長)

平成 25 年度の工業部会の事業は、先生方の研修への熱意と運営面でのご協力のお陰で大変充実したものとなりました。特に、本工業部会の下に設置された特別研究委員会は、平成 25 年度、26 年度の二カ年にわたり、「特色と魅力ある本県工業教育のあり方」(サブタイトル「本県産業の活性化を図る人材を育成するために」)を研究主題として、①専門的人材育成(新学習指導要領による学習指導)、②エネルギー・環境問題(再生可能エネルギー)、③研修・人材ネットワーク(教員研修、教員間ネットワーク)の 3 委員会に分かれ、調査研究と提言を行います。今年度は中間報告(詳細は本誌を参照)がなされた。次年度に向けて、工業教育がより一層充実する研究成果に期待をしたい。

さて、今年度より新学習指導要領が完全実施となり、高校教育の質の確保が話題になるなか、本県の工業教育を取り巻く状況も変わりつつあります。25 年度からの 3 カ年で工業科を設置する学科が 5 学級減、平成 4 年には全ての工業高校が学校の適正規模である 5 学級以上であったが、今は 3 校のみとなっている。しかし創造的ものづくり立国を目指す我が国にとって、その中核となる技術・技能者を育成する教育機関として工業高校は重要な役割を果たしている。また、過去十数年間にわたり、日本の若者たちは、働くことをめぐる受難にさらされるなか、工業高校の卒業生は、高い就職率と低い離職率を保ってきた。地元企業へ多くの人材を送り出している工業高校は高く評価されている。このことは、工業教育を通して、生徒に職業人として必要な「専門性の基礎」をしっかり身につけさせているからにほかならない。普通科が大半を占める高校教育が、「教育の職業的意義」が希薄な中であって、工業高校はいまなお重要な存在意義を持っており、その意義は、今後さらに重要になると考えています。

最後になりますが、今後とも多くの優秀な人材を育成するために、不断の研究と研修を怠ることなく、皆さんとともに生涯学び続ける教師でありたいと願っています。